

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成18年(2006)

平成18年 新春号(74号)
<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp>

主な目次

宮司年頭所感	2頁
大宮八幡祭り	3頁
杜の話題	5頁
古神札焼納祭(どんど焼)	9頁



<元旦午前零時の冬桜>

平成十八年丙戌歳の新春に当たり 謹んで皇室を中心とする国家の隆昌と 氏子崇敬者の皆様のご清福を熟禱申し上げます

今年の元朝も、初太鼓に続き、神能「翁」が朗々と奉奏されて丙戌歳の新春が明けます。

お蔭様で昨年もご神恩を戴き乍ら、「ご敬神の念の篤い氏子崇敬者の皆様のご理解とご協力に依り、年間の諸祭儀並に諸行事を滞りなく順調に進捗させて頂きました事は誠に有難度く感謝致しております。本年も何卒よろしくお願い致します。

昔、羅針盤が壊れ大海を漂流している時の船乗りは動かざる星、北極星を目印に航海したと云います。この北極星こそは不動の日本、即ち私共の遠い祖先より受継いで来た正しい歴史の認識に他なりません。我が国の文化や歴史と伝統のある国柄に対する誇りをしっかりと持つことあります。

昨年は日露戦争戦捷（講和）一〇〇周年記念の年であり、大東亜戦争終結六〇周年の節目でありました。秋には氏子崇敬者の皆様と共にバス一台で靖國神社を参拝し、遊就館と神宮外苑の聖徳記念絵画館を拝観させて頂きました。

今から百年前の日本は世界列強にようやく仲間入りが出来、武力と道義の両面に於ける卓越した国民性は世界各國より羨望の眼差しで見られていました。そこには明治人の気概や明治の心、明治の国造りに学ぶところが沢山あると思います。しかし乍らその四十年後の大東亜戦争の敗戦に依り、これらの全てが否定され国体の恢復が不可能なまでに骨抜きにされ、自虐史観による六十年が過ぎてしまいました。

「物で栄えて心で亡ぶ」と日本の将来に対して警鐘が鳴らされて久しいのでありますが、確かに今日の日本は経済大国として見事に復興し発展しております反面、心の復興にはまだまだある感が致します。



百年前の誇りと栄光と六十年前の屈辱の明と暗、將に二つの極端を経験して来

丙戌歳の年頭に想う

宮司 鎌田紀彦

た今こそ、過去を冷静に顧み乍ら、現在の難局に対処して行かねばならない大切な年明けでもあるのです。日本が日露戦争に勝利することに依って東南アジア、アフリカ、中南米の諸民族に勇気を与えたインパクトは大きく、人種差別からの解放はもとより、白人種支配の植民地より有色人種の民族独立運動の切っ掛けが生まれました。これらを恐れたい西欧列強、特に米国は日露講和の仲介の労をとった時から、我が国が国力を進進して行く

ことを非常に危険視して、オレンジ計画を企てていたのであります。西欧列強とともに我が国を四方よりとり囲み、敢えて日本を孤立化させて戦争を仕掛けて来ました。日本は何とか戦いを避けるべく懸命の外交努力が続けられたのでありますが所詮米国の手の平の内、宣戦布告をせざるを得なかったのであります。昭和天皇は大東亜戦争開戦の御前会議の席上、かつて日露戦争開戦の時に詠まれた

明治天皇御製

よもの海みなはらからと思ふ世に
など波風のたちさわぐらむ

を引用されたのも思い止まりません。出来ないので大御心を述べられたと伺っております。

ご存知の通り先の大戦では、日本国民の多大な犠牲のもとに敗戦を迎えたのであります。又この結果日露戦争の日本勝利によって芽生えていた人種平等の社会を目指して、白人人種の植民地支配から次々と民族国家が独立していった事は、歴史的事実として証明されている通りでございます。

にも拘らず占領軍の米国は執拗に計画通り日本の精神的弱体化政策をおし進めました。そうして国際法上あつてはならない東京裁判（極東国際軍事裁判）を断行、日本は侵略戦争をして来た罪深い民族であると

する東京裁判史観（自虐史観）を植え付け、戦後六十年に亘って巧みに日本人を無能化して来たと言つても過言ではありません。ようやくこれ等に関する戦前の公文書や情報公開されたことある今日、これ等多くの関係書籍も出版される様になり、それらからしても日本の戦いは「自存自衛の戦い」であつたことの真相が理路整然と裏付けられ証明されて、歴史的事実が正しく客観的に見られる様になつた事は時機をえた事であると思つてみます。この時に我が杉並区では関係者の大変な苦勞と努力の甲斐あつて中学生の歴史教科書に扶桑社の「新しい歴史教科書」が四年振り採用されたことは朗報でありました。日本人として日本に生まれたことに誇りと勇気を抱く生徒等が育つて行くことを期待致しております。

その反面小泉自民党はこれからの我が国をどの様に舵取りしようとするのか見えなくなつて来た感じが致します。能くならず来た感じが致します。今度の郵政改革も米国の掌の内、の改革と云う識者が多いのです。更に晩秋に出された首相の諮問機関「皇室典範に関する有識者会議」の報告書にも見られる様に女性、女系天皇を容認し、しかも皇位継承順位は男女を問わない天皇直系の第一子を優先した内容のもので、やはり最初

に結論ありきの、あまりにも拙速すぎるものと思われ。このまま進みますと一五五代に亘り連綿と万世一系の男系の血脈によって継承されて来た我が皇室の権威と伝統はどうなるのでしょうか。我が国の国柄の根幹に係る重大な事柄であります。又遺伝子学的にも初代の神武天皇以来、一五五代二六〇〇年余に亘り「Y染色体」が男子皇族（元宮家を含む）だけに受け継がれて来たこの事実も世界に類稀なる奇蹟としか言いようのない尊厳でございます。

祭祀を重んじて来られた我が皇室の伝統文化からみても、国民として良識ある議論を喚起して行かねばなりません。いづれに致しましても今年こそは動かざる北極星をしつかりと見据え、いつまでも米国の属国をなく、自国を守る気概と勇気を以て、尊敬する皇室を中心に国民が一致団結のもと、美しい日本の国柄を子々孫々へと継承しつつ、国際貢献もして行かなければならないと誓いも新たに致すものと致します。

今年も、ご神威輝く新春のご社頭に「ご参詣を頂き幸せ多き年となりますよう」ご祈念申し上げ、年頭の所感と致します。

大宮八幡祭り齋行

秋の大祭・大宮八幡祭りが九月十五日から十九日まで行われ、十五日には例大祭が、十八日は今年から氏子奉幣祭として齋行。氏子

四地区より御奉賛の氏子幣が田木責任役員（副祭礼委員長）によって大前に献じられ、奉幣使の高橋責任役員（祭礼委員長）により氏子祈願文が奏上されました。大宮八幡祭りは昨年から例大祭は十五日に変更ありませんが、神賑行事は敬老の日前の土日の実施になりました。（平成十八年は十六・十七日）

十五日午前十時より神社本庁の献幣使として平岩昌利東京都神社庁長（代々木八幡宮宮司）に参向頂き（写真）、氏子崇敬者約一五〇名が参列し例大祭が齋行されました。

十六日の神輿神霊入れ（写真）につづぎ十七日には境内で園児の民謡踊りや杉並太鼓の奉納があり、午後六時より宵宮祭を齋行しました。翌十八日午前十時より氏子奉幣祭（奉祝当日祭）を齋行（写真）。また境



内では、倭成雅楽会による舞楽や小笠原流草鹿式などと、今年初めて方南エイサー隊むるち組（小中学生四十名）によるエイサー踊り（写真）が奉納されました。そして祭のクライマックス神輿合同宮入りは、本年第二十回の節目の年にあたり、氏子四地区七基の神輿が例年の倍の距離にあたる八幡前商店街入口を午後六時に出発し、午後七時四十分神門内に練り込み、一斉に揉み合い、祭の盛り上がりは最高潮を迎えました（写真）。境内には、この土日約一二〇軒の露店が出て夜遅くまで賑わっておりました。



「十五夜の神遊び」齋行

第五回「十五夜の神遊び」が九月十九日望月に、齋行されました。神遊びとは神慰め、神祭りの事。前日の十八日が満月で大宮八幡祭り第二十回神輿合同宮入りが行われましたが、この熱



気が冷めやらぬ中、竹筒に浮き蠟燭を浮かべた八百基の竹燈に火が点され、仲秋祭を齋行。ついで雅楽神楽舞奉奏に続き、新邦楽のユニット「東方異聞」により「月の首（おと）コンサート」が催されました。つづいて清涼殿ではこの日に因んだ特選の新作料理「月見御膳」を賞味する「月見の宴」も和やかなうちに催されました。

お木曳奉仕者募集中

伊勢の神宮では平成二十五年、第六十二回神宮式年遷宮が齋行されますが、そのお木曳行事が本十八年実施され、当宮よりも一日神領民として左記により奉曳にご奉仕出来る事となりましたので奮ってご参加下さい。

伊勢神宮式年遷宮
御総務部御用掛 伊勢市御用掛 伊勢市御用掛



- 記
- 一、一日神領民 四十名
 - 一、奉仕内容 外宮陸段曳奉仕
 - 一、日 時 平成十八年五月十二日（金）十三日（土）
- （十二日浜参宮、十三日奉曳奉仕）
（日程・費用等詳細については社務所へお問い合わせ下さい。）

大宮八幡宮御鎮座九四〇年奉賛者芳名（八）
平成十七年八月一日～平成十七年十二月三十一日
一、金五万円也
本齋宮一

初宮詣芳名

(平成十六年七月十六日、十月三十一日)

お健やかな成長をお祈りいたします

- 高見玲央 宗京香 山下哲平 原田英
大庭明之夏 菊池亮太 野口真生 秋本彩乃
大澤明日人 中田樹希 細矢真由 野崎陽人
西山薫 青木愛 金子生真 小野寺輝
針生晟汰 坂本大晋 有山咲良 浅田さつき
吉田和未 井上颯人 田中菜 大塚咲
加藤陽季 金井拓海 丸山宙香 犬飼真基
木藤倫太郎 野子将太郎 田子勇之介
門多陽夢 河野葵 宮崎詩央 内田晴仁
松井陽菜 天野孝彦 上野友嗣 酒井晴香
石毛祐貴 柳田俊 木村一志 松浦亮
石田妃華 小野沙羅 武井孝志郎 熊谷そら
大宮司真希 大場瑞佳 酒本吉多 齋藤美咲
松林勇汰 濱口莉緒 米谷健多郎 西尾咲歩
安枝太基 久田愛 清水太一 大館朋加
石川陽士 澁谷健太郎 丸山萌 宮島奈々花
川下海翔 野山修司 河原林獅音 安田彩
助川斗万澄 小林凜久 前田凜 沢登晴彦
井島晃 村上遼花 金子生樹 山 凌久
高橋美咲 鈴木祐伊 松宮月里 渡邊太郎
稲葉葉 篠崎萌花 西稜翔 広田あゆむ
新田蒼 財前和之介 中浜快真 若森宇蘭
山田青音 須田遥介 千田桃歌 村田優介
笹原桐人 安藤翔 柏木秀太 丸山明純
深草楓太 小倉一真 小崎優太
寺尾陸 佐藤夏帆 辻創太 剣持啓吾
吉川玲風 福島央喜 長尾利菜 木村利麗
宮下琴音 納谷詩織 野田稔太郎 岡村葵
成田里夢 加納里沙 元吉佑季奈 木下汐理
村田里優 米谷実優 遠藤啓貴 村松芽衣
佐藤蘭 藤田輝 細金茉莉 木村匡輝
柿原健太 野内悠生 新倉悠紀乃 水越柁臣
福島瑠生 山下雄大 田中紅羽 藤本唯杏
- 松岡秀明 清水彩史 小倉泊琉 辻幸大
高木志龍 三本裕大 新中碧惟 中村朱里
鈴木愛菜 田中明日香 上村夏輝 西川菜奈
歌 星七 加納明也 櫻垣愛唯 金田浩輔
渡邊真凛 荒木波菜 板垣聖美 池戸大知
野村瞬 河原田起瑠 阿部泰地 土橋菜生
雁谷美雲 安達満月 多田愛蘭 野口勇汰
成田悠人 西村小桜 杉浦有咲 秋元比呂史
梅澤七美 中江琴玖 柴田唯 谷田壮志朗
長谷川裕也 嶋優萌衣 石井朱来 小林璃音
中西桜子 鈴木冷 石川夏紀 田口裕楽
柴崎健 黒田成龍 坂田琳悠 徳廣結衣
橋本明佳 廣瀬瞬 松橋純聖 新山寛弥
佐藤衣巳李 佐藤寛大 菅雅久 善如寺愛菜
善如寺信彰 大沼優里奈 水元ちさこ
西田夏蓮 丹羽航未 矢野悠 井上結柳
米田琥珀 脇田紗良 星川悠 関根薫
宗原匠杜 橋爪秀樹 東雄太 岩宮悠
堤彦乃真 松本颯介 野中難和 中野愛弓
森川遼人 稲田知真 熊谷祐里 一色智太
小川悠 遠本朱音 吉村萌生 木田こころ
中神志優 藤倉絆夏 吉田隼斗 二村爽菜
板倉由佳 原果蓮 鯉森匠一郎 竹田小夏
中澤柑奈 笠原拓海 二角ちひろ 吉村颯氣
守口意之 井村航希 三宅陽輝 小池咲也
三隅朱莉 伊藤優太 川崎理輝 加藤伊路
曾根夕達 立川慧 北條うらら 栗屋空
吉川碧海 渡邊奈 黒澤輝 鈴木光流
原健太 鈴木美々愛 鈴木里々愛 君島赤羽
広岡千歌奈 後藤美紘 永野祐希
萩野谷悠久 黒須文哲 島村優唯 齋藤夏音
内山璃空 高田隆吉 中原伊万里 山本深太
湯本匠海 福原陽吾 坂口美怜 小峰那央子
山本碧 大川翔 匂坂炒ら 石井萌恵
久米千鶴 森野遥 島田竜羽 西村千聖
- 谷口佑樹 山田樹 前田真由子 奥原彩翔
小嶋桃夏 後藤美那 高瀬啓明 齊藤雅美
水澤啓太 田中達巳 菊池隆世 高 光輝
菊池康平 高橋史也 須貝優翔 米山夏未
花岡彩都 仲居結愛 中西真菜 阪野澗太
留場海 小澤嘉織 常森瑠平 小石澤勇治
赤羽教広 牟田友希子 太田真緒 三宅一颯
安藤涼人 明石大輝 松本莉一 吉川悠
田中志苑 西岡良真 畑中沙羅 志村龍汰
御子柴里武 神山綾乃 高居蒼大 田中大樹
菊池美帆 西田悠樹 飯島美久 田中祐和
高宮櫻ノ介 岩田真尋 時田悠矢 渋谷崇
高橋ほのみ 相原健信 北村玲緒 石井悠貴
澤井南々子 加瀬悠菜 杉本菜摘 内藤美風
バクヒラン 佐藤世梨 齋藤恵佑
長谷川莉緒 磯貝光希 比江島幹 赤羽夏希
清水彩也夏 荒木直季
ビトリイ・ブランドン一輝 杉本小美優
坂本拓真 山中梢叶 穂吉沙月 鮫島瑠璃花
清水依利菜 山本美穂
小林悠太郎 松下海斗 緒方與人 大越賢人
玉澤伸和 土方紬 鳥澤未織 綿坂さくら
久山晃平 川口大晴 茂木亮弥 大谷芽以
青木涼 竹花心 森本隼生 白田奈央
遠藤梨奈 小林南々帆 黒田隼人 黒田諒
麻生絵真 石曾根向 岡村日向 金山祐巳
森達雅 浅岡陽里 河本珠奈 山田蒼
井村結花子 塩塚優有 中村心美 竹内涼
根岸碧 漆畑涼花 森宙海 丸岡大輝
竹内翔 半田佳苗 市川珠音 押田凜空
長敢威 鈴木喬乃朗 山村真由 黒澤岳陽
市村哲司 古橋優太 早川祐貴 辻佑真
曾我美陽 志村桐子 西原裕大 中澤賢紀
久慈海莉 望月すず 水野佑一 杉本泰樂
田代碧空 石山幸隆 相川涼美 中島和優
中村温人 北岡慶一朗 安藤心香
堀口みすず 新山馨星 大嶋航矢 三浦芽依
中嶋隆臣 志津美咲 蟹江賢太 菊池彩純
垣花音乃夏 長谷川莉緒 大江勇人
石原圭祐 平沢遼 國領美海 森夏音
岩田日和 今奈良太一 山岸萌叶 深堀陽天
- 吉田ひより 藤井翔太郎 宇田川侑吟
山口慶 前沢恵也 加藤千愛 岡本伊織
橋本漱太 小岩原陽人 海老澤里穂
小林志緒乃 勝山美優 中尾歩鈴
西森あおば 竹内伊舞崎 大橋菱
三島野乃花 小倉悠誠 浅野葵 阿部寿音
加藤美柚 新妻南奈美 上田旺弥 遠藤旺輔
前田美湖 上田紗佳 天野日向子 海野由瀬
野原大輝 向山大輝 上北美穂 神田英祐
荒井留花 伊藤綺香 濱松幸輝 川合瑛太
澤美月
中尾温生 望月瑠衣 渡辺大地 小藤智輝
海老澤采希 船渡川月美 松元啓 新井涼介
堂前美宇 大武隼斗 祝田真旺 片山山海
鈴木利乃 喜多川離子 勝山翔太 宗野沙羅
森永凜太郎 宇美夏月 清水みずほ
島田芽依 木村羽菜 内藤岳瑠 高木ちなつ
花松瀨里 中森菜月 辻温人 辻誠人
遠藤彩音 目黒美月 平塚昌太 細貝梨名
山高友楠 小野塚梨亜 足立七葉
山川遼太郎 中山太松 竹平翔 小池晃聖
藤盛涼帆 高田茜 松林圭祐 田嶋良征
内海響 内海瑚椰 吉田萌音 守屋実紀
村山遥香 山部叶夢 嶋あかり 井川柚羽
高島匠玄 齋藤帆菜 白川誠久 浅野楓
片岡美乃里 横山公亮 天市日輝 矢島紅葉
山雄太 前田みみ 岩谷遥太 中澤一介
町田歩優 西澤匠哉 野口琳央 山本澤之介
庵原咲南 多並知輝 雨平遼汰 田中志佑



杜の話題

兼務各社も例祭齋行

当宮兼務三社に於いても九月に入り各々例祭が齋行されました。

まず九月四日午前十一時より尾崎熊野神社の例祭が、宮司以下祭員奉仕により氏子総代が参列して齋行されました。境内では、氏子会主催、地元町会・小学校協賛による模擬店、子供カラオケ大会、民謡大会等が催され手作りのお祭りが催されました。

ついで九月十一日午前十一時より成宗白山神社の例祭が同じく宮司以下祭員奉仕により齋行されました。また境内では蔭祭の為、神社のそばに葎簾張りの神輿奉安所も目見え氏子会と若睦会による模擬店、夜には櫓を組んでの盆踊りが開催されました。

堀ノ内熊野神社の例祭は、本年から第三日曜日に変更になり今年は九月十八日午後三時より宮司以下の奉仕により齋行されました。当日は、宮神輿の町内巡幸があり、朝から氏子五町会



を渡御し、夕刻宮入りしました。九四〇年記念出版三部作刊行奉告祭と記念の会が

平成十五年の当宮御鎮座九四〇年を記念してかねてより進められていた九四〇年記念出版が完成、去る九月三日午後、出版奉告祭及び記念の会が催されました。

記念出版は九四〇年記念事業の実施報告である「悠久なる大宮八幡の杜」、九四〇年に至る当宮の歩みを概説した「大宮八幡宮書史」、当宮御鎮座前史とも云うべき「東京・和田大宮の研究」の三部作。三日は宮司以下祭員奉仕により出版奉告祭が齋行され、大前に三部作が奉奠されたあと、出版記念の会を開催。「和田大宮の研究」の著者である萩原弘道氏が同名の演題で記念講演を行いました。元杉並区史編纂委員で食文化の大家でもある萩原氏は、方南、松ノ木などの遺跡発掘に携わった経験を踏まえ、大宮遺跡は古代海人族の族長を祀った墳墓であり、九四〇年前の源頼義公の当宮創建以前にこの大宮の地が聖域であったことなどの論考を発表されました。



「鶏図」奉納

浮世絵師みはし・まりさんが描いた「鶏図」扁額一面がこのほど当宮に奉納され、去る九月十一日奉納奉告祭が齋行されました。

みはし・まりさんは江戸の伝統を受け継ぎつつ、「今」を描き出す現代の浮世絵師として活躍。全国著名神社に作品の奉納活動を行うとともに著作「恵方参り」も出されています。

「鶏図」は平成十四年春の「昇龍の図」(軸装)に続き奉納されたもので、当宮のご祭神・親子三神の強い絆のご神徳を神鶏、雌雄、雛の三羽に描いた雄渾の力作です。



大宮八幡宮奉納鶏図縁起
大宮八幡宮では鶏を飼っていらっしやいます。古来より鶏は神様の使いとされておりました。古事記にも常世長鳴鳥が出て参りますが、鶏が作る時の声が穢を抜きます。

八幡宮の御祭神は応神天皇と父君の仲哀天皇、そして母君の神功皇后でいらっしやいます。
応神天皇は母君の御腹にいらっしやる頃から早くも御神徳をあらわされた神様です。

鶏図は、父と母の鶏とともに母の背中に乗るひよこを配して描き上げました。

親子の暖かい愛情に感謝をしつつ、また鶏が作る時の声が世の穢れを祓つてくれることを御祈りして西年に当たる平成十七年に大宮八幡宮の神様にお納め致します。
平成十七年西月吉日
みはし・まり

杉並区総代の研修旅行が

杉並区神社総代会の秋の研修旅行が十月十八日秩父方面にて実施され、当宮と当宮兼務社より鎌田宮司はじめ役員・総代七名が参加。秩父社の三峯神社や秩父神社を参拝しました。



東京都八幡会研修旅行

当宮が事務局を担当している東京都八幡会(会長・平岩昌利代々木八幡宮宮司)の研修旅行「八幡信仰を追って」が十月二十四日から二十六日に実施され、当宮より宮司他が参加しました。

今回の研修は霧島・指宿方面を訪問。初日は襖袂の霊跡と伝承される宮崎市阿波岐原町の江田神社、風土記の丘第一号である西都原古墳群などを参拝見学、日新田神社を参拝



靖國神社参拝

日露講和100年・大東亜戦60年

昨年は日露講和百年・大東亜戦争終結六十年来に当たりました。当宮ではこの節目の年にあたり先人に思いを致そうと靖國神社参拝と聖徳絵画館見学を去る十一月六日に実施致しました。

一行三十六名はまづ九段の靖國神社に昇殿参拝、明治十五年わが国最初の軍事博物館である同社遊就館を訪問、殉国の英霊のご遺品等を拝観、合わせて催されていた「日露戦争百年展」も見学しました。

昼食後は神宮外苑の明治神宮聖徳記念絵画館を見学。

明治期の近代化への飛躍の姿や歴史的事件の数々が当代表を代表する画伯等によって描かれた八十枚の大絵画（日本画・洋画各四十枚）を興味深く見学しました。

儀礼文化学会

第二十五回地方大会

儀礼文化学会平成十七年度の地方大会「中華民国の道教儀礼



を学ぶ」が平成十七年十月二十八日（金）～三十一日（日）の三泊四日で開催され、倉林正次理事長以下三十一名の一行に同会評議員の当宮宮司夫妻が参加。台南市の興濟宮（医療関係者の神、保生大帝を祀る）に参拝後、同市道教会理事長他道士五名の奉仕に依る「祝寿」と云う道教の祭りに参列、陪観後道教会との懇親会や滞在中市内の天壇、大天后宮、

崇敬者相次いで参拝

立正佼成会越谷教会一行二十六名様が、教団本部参拝の後、去る九月二十六日の午後、本部の氏神様である当宮をお参りしました。先づ社殿にて正式参拝の後、当宮宮司より神社の由緒と教団と当宮との関係等についての説明と挨拶があり、その後、境内を散策し帰路に付きましました。

また、二十九日には、明治神宮崇敬会加須支部婦人部一行三十八名の皆様が参拝致し



崇教真光岡田晃弥氏参拝

九月十九日の「十五夜の神遊び」に、崇教真光岡田晃弥二代教え主代理他二名が来駕。雅楽神楽舞奉奏と月の音コンサートを陪観後、大前に正式参拝、宮司と懇談後、清涼殿での「月見の宴」に変わりやかな一時を過ごされました。



ブラジル軍警察参拝

ブラジル・サンパウロ州軍警察首都圏警察第五連隊隊長イザウル・セガラ・ジュニア大佐以下十一名が、お参りされました。

一行は、警視庁の招きで、日本の警察制度、特に交番と駐在所の視察の為来日したとの事で、当日は地元の高井戸警察署を訪問し、午前中署員の訓練や防犯カメラ等を見学。



皇學館大学上杉理事長参拝

大宮八幡駐在所を視察し、その帰路、北口署長等と共に当宮に立ち寄り菊花展や神輿庫を見学し、社殿で正式参拝を致しました。七五三詣の可愛い着物姿の子供等に日本の文化と伝統を堪能したようでした。

今般、創立百三十年並びに再興五十年を迎える、神職の高等育成教育機関である（学）皇學館理事長上杉千郷氏が、去る十月二十日に来宮し正式参拝の後、当宮宮司と懇談致しました。

ライオンズ石井投手が

ご長女の七五三詣で

プロ野球・西武ライオンズの石井貴投手が去る十一月二十日、お子さんの七五三詣でのため当宮に参拝。浜田山にお住まいの石井投手は長女百合花ちゃんの三歳のお祝いのため、ご家族と一緒にご参拝、お子様の成長を祈願されました。



白山比咩神社山崎宮司参拝

加賀國一之宮白山比咩神社宮司山崎宗弘氏ご夫妻が、去る十一月二十四日来宮致しました。正式参拝の後、黄色く色付いた夫婦銀杏を仰ぎながら境内を散策し、清涼殿において当宮宮司

と懇談されました。

元横網若の花 「ご一家で七五三詣でを

元横網若乃花の花田勝さんご一家がお子さんの七五三詣でのため去る十一月二十七日、来宮されました。この度のご参拝は次女麻美さんの七歳の帯解の七五三のため詣でられたもの。元横網、美恵子夫人、ご長男ご長女のご一家お揃いでご参拝、お子様のご成長を祈願されておられました。



杉並大宮菊花展

第二十七回を迎えた「杉並大宮菊花展」(杉並大宮菊の会主催、杉並区後援)が、境内で十月二十二日より十一月二十三日までの一ヶ月間開催されました。

本年は気候の影響で発育が芳しくないとの声が事前にありましたが、その分会員各位が満を持しての出品となり、十一月八日の審査の日には、実力の伯仲した作品がそろい、宮司賞、区長賞等の選考に時間がかかっておりました。



出品作品は、盆養菊、盆栽菊・懸崖等と例年の七五三の文字菊他に昨年から加わった境内や近隣の風景を模した盆景等で、参拝者に好評を博しておりました。

ご神符奉戴式

新春を迎えるにあたり、年末に氏子崇敬者や全国の立正佼成会会員の方々にお頒ちするご神札奉戴式が、本年は去る十一月四日午前十一時より、当宮宮司、高橋住雄責任役員、神札頒布責任者の森川カツノ、小松延江両氏が参列し、斎行されました。御神前に於いて大宮大麻・大宮三宝荒神などの神札にご神霊をお遷し、また神宮大麻と併せ

て頒布始めの旨を大神様に奉告後、宮司、参列者が玉串拝礼を行いました。

各ご家庭、会社事務所では、新しいお札を神棚にお祀りしてすがすがしい気持ちで新年をお迎え致しますよう。

新嘗祭

新嘗祭は、十一月二十三日午前十時より宮司以下祭員奉仕により役員総代崇敬者等またボーイスカウト・ガールスカウトが参列するなか斎行されました。

この祭典は、五穀豊穣を祈る春の祈年祭と一対をなし、大神様に秋の実りの新穀をお供えし感謝するお祭り、大宮幼稚園の園児が園内の稲田で一生懸命育てたイセヒカリの稲穂、ボーイスカウト杉並十三団より和稲ガールスカウト東京六十二団より野菜と、近隣の崇敬者からも野菜が奉納されました。今年は特に埼玉県の篤農家吉野森男氏よりイセヒカリと緑米が献納された他、兵庫県や新潟県等の崇敬者からもコシヒカリの精米や果物が献納されました。

また近年の社会状況の変化を鑑み、豊作の感謝だけでなく、会社の繁栄、事業の成就をも含めて感謝するお祭りとして当宮崇敬の会社など



にご案内致しましたところ、百名を超える多数のご参列を頂き盛大に祭典が斎行されました。

杉並花笠祭

第十五回目を迎えた「杉並花笠祭り」(当宮と「サミットの主催、後援山形県他)が、十二月十日開催されました。

当日は、開催に先立ち社殿に於いて「杉並花笠祭奉告祭」を斎行、神門前広場のメインステージでの鏡開きを皮切りに各種の催し物が次々と執り行われました。

ご社頭では花笠踊りと同じ節廻しの「大宮八幡音頭」が流され、東京山形県人会花笠踊り愛好会や地元商店会婦人部など多数の踊り手により花笠パレードを、賑やかに奉納。約三万人の参拝者で境内は終日賑わいました。



フリーマーケット開催

大宮八幡宮の第一回フリーマーケットが年末の十二月二十五日、当宮表参道で開催されました。このフリーマーケットは東京リサイクル運動市民の会によるもの。今後毎月一回開催の予定で次回は一月二十八日(土)に実施致します。

八月二十八日	財政金融大臣	竹中平蔵氏
九月一日	衆議院議員	石原伸晃氏
九月二日	立正佼成会理事長	山野井克典氏
	世界宗教者平和会議(WCRP)	日本委員会事務総長代行
		畠山友利氏
九月九日	京王電鉄 広報部長	山本 護氏
	広報課長	加瀬 昇氏
	井ノ頭北管区長	井上利行氏
九月十二日	杉並税務署長	笹森浩志氏
九月十三日	谷保天満宮宮司	津戸 最氏
十一月十六日	ギターリスト	荘村清志氏

平成18年 厄年表 (数え年)

男 性	前厄	本厄	後厄
	昭和58年生(24歳)	昭和57年生(25歳)	昭和56年生(26歳)
女 性	前厄	本厄	後厄
	昭和41年生(41歳)	昭和40年生(42歳)	昭和39年生(43歳)
	昭和22年生(60歳)	昭和21年生(61歳)	昭和20年生(62歳)
女 性	前厄	本厄	後厄
	昭和64年生 平成元年生(18歳)	昭和63年生(19歳)	昭和62年生(20歳)
	昭和50年生(32歳)	昭和49年生(33歳)	昭和48年生(34歳)
	昭和46年生(36歳)	昭和45年生(37歳)	昭和44年生(38歳)
	昭和22年生(60歳)	昭和21年生(61歳)	昭和20年生(62歳)

厄年に当たる方は、厄除開運の信仰の篤い当八幡宮において、厄除けのお抜いをお受けになり、清々しい一年に致しましょう。

厄除け祈禱のご案内

平成十八年度
裏千家献茶式並びに
大宮八幡宮の杜薪能のご案内

八回目を迎える「裏千家献茶式」は、来る平成十八年五月八日(月)に開催されます。
また第三回「大宮八幡宮の杜薪能」(主催・杉並で能楽を楽しむ会)も、来る平成十八年五月二十一日(日)に奉納公演が決まりました。
詳細は次号にてご案内いたします。



一日動物村

十一月二十四日、冬晴れのぼかぼかと暖かい園庭に動物村がやって来ました。この日を心待ちにしていた子ども達は、登園して来るなり、「ウサギさんがいる」「ヒツジさんだー！」といつも遊んでいる園庭に次々と動物が現れ、テントやフェンスなどがセツティングされていく光景に「お庭が動物園みたい」と大興奮でした。
実際に動物と触れ合う時間になると、こちらがヒヤヒヤしてしまっ程、動物との触れ合いを満喫している子や、恐

る恐る小さなヒヨコに触れ、「あったかいね」と動物の温もりを感じている子もいました。初めは恐がっていたへびも一人が首に巻くと「僕も！私も！」と首に巻いては「へびって気持ち良いよ」と感想を言っていました。沢山の動物と触れ合い、なかなか体験出来ない事を経験した子ども達はどの子も嬉しそうで、とても楽しい冬の日を過ごしました。
教諭 服部仁美



緑豊かな都心の杜。
正統派神前式

成人式

卒業式

清涼殿

衣装・美容着付・写真・
初宮他会食承ります。

03(3312)7515

結婚式挙式者芳名(敬称略)

(平成十七年八月一日)

十七年十二月四日)

永島 重人・麻美子、藤尾 秀樹・元子、八代 涉・由岐子、大久保 景司・圭、毛塚 貴司・木綿子、岡田 一秀・みほ、細江 賢治・ひさの、澤田 毅・南穂子、川本 理・佳菜子、辺見 哲・加奈子、井関 和洋・たまお、松田 伸吾・千恵

**古神矢古神札等
焼納祭(どんど焼き)に
ご協力をお願い**

一年間御守護頂いた御神札やお守は、感謝の念を込めて氏神様にお納めしましょう。

当宮では、一月十五日午前十一時より古神矢古神札焼納祭を斎行致しておりますが、近年の地球温暖化や環境汚染等で問題視されているダイオキシン等の環境保護対策を念頭に、今後とも伝統行事のお焚き上げ神事を存続させる為にも、お納め頂く際に全ての物を点検・選別させて頂き、神社関係以外の物・燃えない物・有毒物質の発生の恐れのある物(プラスチック製品等)は、その場でお持ち帰り頂いてお持ち込みので、予めご了承の上お持ち込みになりませぬ様にご協力をお願い致します。

一、納所では感謝を込めてお納め願います。
一、納所は当宮の古神矢・古神札類及び正月飾り(しめ縄等植物性のもの)を、お預かり致します。但し、大型の門松等業者の持ち込みはご遠慮頂きます。

一、人形(ぬいぐるみを除く)類は別途に人形感謝祭を行ってお納め頂いておりますので、祈祷受付へお申し出下さい。
一、ご不審な点は社務所へお尋ね下さい。
受付時間は、午前九時～午後五時迄です。時間外は、不法投棄になります。

お預かり(お焚き上げ)できない品
お寺の仏像・経本・仏具類
年賀状やカレンダー
プラスチックの正月飾り
日記や写真など想い出の品
当社以外の干支の置物
祝儀・不祝儀袋
結納品
ダルマ(可燃不燃問わず)
財布
教科書やノート
みかん・餅など生もの
その他神社に關係のない品

ご持参の包装紙・袋等はお持ち帰り願います



春の祭典と行事	1月1日
神能「翁」	1月1日
新春厄除開運大祈禱	1月1日
歳旦祭	1月1日
大的式	1月2日
元始祭	1月3日
武蔵野陵遥拝	1月7日
月次祭並古神札焼納奉告祭	1月15日
古神札焼納祭(どんど焼)	1月15日
初天神祭(大宮天満宮)	1月25日
文化財防火デー消防訓練	1月26日
節分祭	2月3日
初午祭(大宮稻荷神社)	2月10日
梅盆栽展	2月下旬
紀元祭	2月11日
ぼけ盆栽展	3月中旬
畝傍山東北陵遥拝・本宮遥拝	4月3日
裏千家献茶式	5月8日
大宮八幡宮の杜新能	5月21日
朔旦祭	毎月1日
月次祭	毎月15日
古民具骨董市	第4土・日
フリーマーケット	第4日

<p>毎月、お朔日参りを致しましょう。</p>	高橋	三枝	相川	大塚	黒澤	田中	三枝	方南地区	根岸	青木	毛塚	関本	請井	五本	大宮地区	総代	関澤	古谷	細井	監査	毛塚	松島	黒澤	藤枝	梅田	田中	五本	高橋	責任役員	代表役員	大宮八幡宮
	住雄	治太郎	真喜雄	浩一	千城夫	栄治	兼務社総代会長	松ノ内熊野神社	辰行	龍彦	克彦	正治	勝治	徳治	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島
	安藤	尾崎	岩田	成宗	大高	堀ノ内	兼務社総代会長	松ノ内熊野神社	辰行	龍彦	克彦	正治	勝治	徳治	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島	松島

謹賀新年
平成十八年元旦



平成18年新春



新年にはご祈願をうけ清々しい一年に致しましょう



元旦零時、宮司の初太鼓とともに開門



神能「翁」



新春厄除開運大祈祷（一番祈祷）



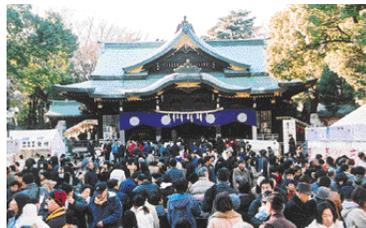
元旦午前8時、宮司以下参進。宮司祝詞奏上。



元旦、庭野会長以下正立成会幹部がご参拝



正月期間中、それぞれの願いを込めて参拝者が大前に額づく



2日、小笠原流大的式

元旦午前零時、初太鼓と共に開門。神能「翁」が大前に奏された後、一番祈祷を奉仕。午前八時よりは歳旦祭が宮司以下祭員により奉仕され、一年の平安が祈られます。二日、小笠原流大的式が奉仕され、十五日の小正月には古神札焼納祭（どんど焼）が古式に則り斎行されます。



境内に掲出された献灯



15日の小正月には古神札焼納祭（どんど焼）が。



大 宮 第74号
平成18年新春号
平成18年1月1日発行
大宮八幡宮社務所
東京都杉並区大宮2-3-1
電話(3311)0105 168-8570